

人形劇団とんと 三四のやぎのがらがらどん

THREE BILLY GRUFF

＊ やぎといっしょにドキドキしてください ＊

小さいやぎになった気分？



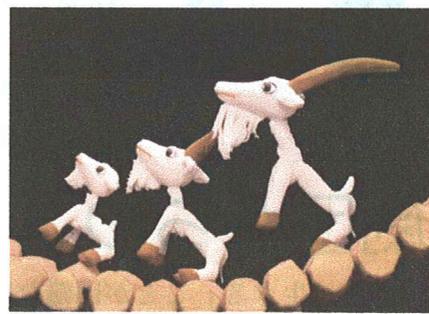
ちょっと怖いトロル

トロルって本当に不思議な存在です。もう何年もトロル役をやっていますが、未だにわからないのが、ただ橋のたもとでやぎが来るのをジッと待っているだけの存在だということ。「本当に腹が減っているならやぎのいるところに行って食べたらいいのに」といつい思ってしまう。ただただ待っている、もしかしたらとっても我慢強い妖精なのかもしれません。でも「橋のたもとでまっている」というのがこのお芝居の劇的な最大の魅力なのですね。 K

lelelele

子どもたちがこのお話を観るとき、どうしても小さいやぎに目がいきます。観ている多くの子どもたちは小さいやぎになったつもりで劇中にのめり込んでいるのです。トロルがいる橋を小さいやぎから渡りませんが、不思議とここで「大きいやぎから渡ればいいのに」などと言う子どもは一人もいません。何百回も上演をしていますが、一回も言われたことがないのです。このお話は、小さいやぎから橋を渡るからこそドラマチックになるのです。そして小さいやぎが勇気を振り絞り橋を渡り始めると、観ている子どもたちもドキドキします。橋の半ばにさしかかったときトロルの第一声が聞こえますが、もう心臓が飛び出しそうなくらいドキドキします。実際のトロルが現れると・・・生つばをコックンとしている子どもがあちこちに・・・。緊張は最高潮に達します。小さいやぎがまたさらに勇気を振り絞り「もう少し待てば、ぼくよ

り大きいがらがらどんがくるよ」と言って、トロルが「そんならとつと行っちまえ」と言って小さいやぎが渡ってしまうと緊張が少しにほぐれます。そして中やぎ、大やぎとつないで大きいやぎがトロルをやっつけると緊張は一気にほぐれます。目の前の架空のお話にこんなに緊張する経験はきっとこのお話ならではのことでしょう。どうぞ子どもと一緒に心地よいドキドキ感を味わってください。 代表 前田耕一



妖精 登場

絵本にはないキャラクターがとんとの人形劇には登場します。草の固まりのような妖精が滑稽なぐさで観ている子どもたちの緊張を和らげてくれます。

今後の公演予定

7月28日 東京・代々木

オリンピックセンター

これ以外では地元の幼稚園
保育園などで上演をしています。

想像力を掻立てるつい立てを岩に見立てたシンプルな舞台

